僕のブルー

Shojiro Kumamoto

今年も暑い夏でした。音楽の先輩（Kiyama 氏；「狼とワルツ」）から「SUNO で昔の曲の AI カバーができるよ。オマエもやってみたら…」との電話定期便。昔の音源を詞曲そのままに AI 化できるというのです。

私は、学生時代〈愛媛大学 唄をつくる会〉というオリジナル曲しか発表できないサークルに所属していました。“クリエイティブな何かを残したい”と考えていた自分には格好の居場所で、そこから私の歌作りの旅が始まりました。時は 1983 年。初めの頃はギターでの弾き語り、徐々にバンド活動へと発展しました。松山の学生街を根城にしていた我々は、互いの曲作りや歌/ギターの腕前を意識しながらも和やかな雰囲気に包まれていました。定期演奏会は 2 回／年。そのリハーサルを大学の階段教室へ機材を運び、夕方から晩くまでやっていました。歌詞が出来ぬと辞書や地図帳を持参し、訪れたこともない街について歌にする者もいました。ネットもセキュリティもケータイも何もない長閑な 80 年代。すべてがアナログな関係性でした。

歌作り。私はメロディーを先に作り、その後、それに合う言葉をパズルのように組み合わせる、というやり方で、作品が天から降りてくる、なんていうことは、あり得ません。凡才なのだと昔から自覚していました。

長い学生時代を終え、音楽活動は一旦終結すると思われましたが、その後も umraut というユニットで活動（-1992）。仕事では“音楽療法”を開院前（1995-2014）まで続けていました。しかし、いつも自身の表現には自信を持てずにいました。音楽技能とオリジナリティーの乏しさを感じていたからです。

そんな基本設定を踏まえての今回の取り組み。AI によりメイクアップされ、甦った歌は、確かに自分の作品でした。時代のせいにすれば、“安易な英語のサビや何を言わんとするか分からないコトバ達”は、今となっては訂正のしようもありません。しかし、鑑賞作品としては、20 代から抱えていたコンプレックスに、この歳でようやくケリをつけることができました。アルバムタイトルは、“疲れた僕の魂（ブルー）は、君の手に転がり落ちた～♪”という当時の心象風景を代弁した収録曲のフレーズから採りました。

Bonus Songs は、40 歳を過ぎて、音楽療法において創作した自然や鎮魂をテーマとした沖縄風楽曲とゴスペルナンバーです。“自分でなく、誰かのために歌を作る”という貴重な体験でした。

楽しんでお聴きくだされば、それ以上の喜びはありません。

※web におきましては、証拠物件（原曲）の一部をリンクしています。

2026 年 9 月；クマモト ショウジロウ（くまもとココロクリニック）

TV で“アナザースカイ”など観ていたら、私の場合、「僕の〇×は松山です」なんていうことになるのかもしれません。しかし、ずいぶんご無沙汰しているため、現在（いま）は遠くから懐かしむ街になっています。2026 年春、所用にて再訪しました。（当然ながら）変わり果てた街の風景にビックリでした。あの頃の仲間は、もうそこに誰も居ません。とはいえ、今回、ひょんなことから自身の作品のリメイクに携わるにあたり、もう一度、松山という街を意識せざるを得ませんでした。私自身、人として恐ろしく未熟だったあの頃。音楽を通じて接した仲間達に想いを馳せる掛け替えのない時間でした。週末に“松本楽器や Sound Step”に集まり、そのまま一緒に食事をして、リーダーのアパートへ移動。皆でオールナイトフジを観ながらウダウダとどーでもよい話をしていたあの日々。もう一度あんな時間を無防備に過ごしてみたい。そんな願いは、たぶん死ぬまで叶いません。思い出すと涙が溢れてきます。歳をとったのでしょう。AI のおかげで予期しない充実した時間を過ごすことが出来ました。

〈学園祭にて；1983〉

〈“音姫”解散コンサートへゲスト参加；1984〉

〈SHOTT 後期；1985〉

〈The Wendy でのスタジオレコーディング；1988〉

〈後輩 S 君とのユニット；CO^2；1990〉

〈umraut at Café Coco；1991〉

・Contents

01. Kill The Blue
02. Blue Mart
03. 砂金の時計
04. 貨物船
05. 夜想
06. Stay
07. Sunny Side
08. 茶色の瞳
09. メランダの孤独
10. You made me･･･
11. 月の雫
12. My Favorite Town
13. 土曜日のアトモスフェアー
14. Brazing Night
15. まなざし
16. 靴音からの使者
･････Bonus Songs･････
17. 遠き八月
18. Re-Start

※ All Songs Written by Shojiro Kumamoto （eccept 01.music w/Kiyama-san）
All Tracks Coverd on SUNO AI（Ver.5.5） / 2026.08.14－30.
This Album is dedicated to My Family & Mr.S.K.

原曲、等、ご試聴頂けます⇒

HATADORI is my little symbol of peace & happiness.

Copyright (C) 2025 Penguin Records. No rights Reserved.

01. Kill The Blue

不確かな夜に抱かれて 秘密の愛をむさぼり
行く先のないパッセンジャー　君に闇に神を
バラの花束を抱えて 帰るあてもない僕は
走り続けるメッセンジャー　固く重い扉を開けて
Kill The Blue 腕に繋がれた錆びた鎖を
粉々に打ち砕いてほしいだけ I'm so blue

壁に飾られた叫びと囁きを黄金に変えて
喧騒の中のメディテーション 罪を海に落とした
橋の上を通り過ぎてく化粧を落としたアンジェラ
眠り続けるアジテーション 月の光に輝いて
孤独は朝に研ぎ澄まされてく
Kill The Blue 腕に繋がれた錆びた鎖を　粉々に打ち砕いてほしいだけ
Kill The Blue 胸に詰まったこの塊を　　粉々に打ち砕いてほしいだけ
I'm so blue

02. Blue Mart

ガラクタの街から消えたいった、君はエンジェル
階段を駆け上がりいつも遊びにきてた
独りの夜が寂しくて 誰かと communication 二人の夜が退屈で、夜明を待つ
アンバランスな style を売る 街角は blue mart
捜すアテのない Hacker に、今夜も目を伏せる
電話番号を忘れても 途切れない communication 君と一緒なら少なくとも独りじゃない
Run away from this Blue Mart　僕らはこの街の傍観者
Run away from this Blue Mart　輝き出す前に Time Up

通り過ぎてゆくだけの街に いつか As Time Goes By
壊れかけた時計の針を 気にして笑う
離れ離れになったら 誰かと communication 遊び足りない、君と深く付き合いたい　Oh-
Run away from this Blue Mart　　僕らはこの街の傍観者
Run away from this Blue Mart　　輝き出す前に Time Up

何処かで会ったら君とまた communication 階段をいつもの様に Under The Moonlight
Run away from this Blue Mart　　僕らはこの街の傍観者
Run away from this Blue Mart　　輝き出す前に Time Up

03. 砂金の時計

冷たい夜のコンクリートを 君を乗せて滑ってく
二人の隙間からこぼれ落ちた砂金を探しながら
闇に紛れてもそれはいつも光ってた
月に照らされても錆びることはなくいつまでも
僕の持ってる砂時計の時間はいつも狂ってる
楽しい時は早く切り上げて孤独を水増しする
空の星が綺麗でも君を抱きしめてみても
重力に逆らっても何かに惹かれて落ちてゆく
Falling closer, closer　このまま静かに目を閉じている
Falling closer, closer　じっと耳を澄ませて待っている
マグネットが僕らを引き上げてくれるの

君はいつも優しい香りで通り過ぎてゆくけれど
透き通った時計の音がいつも僕を苦しめて
終わりが近づくほど気持ちは加速してゆく
キスをするたびに届けない場所へ逃げ込んでゆく
※Falling closer, closer　このまま静かに目を閉じている
　Falling closer, closer　じっと耳を澄ませて待っている
闇に紛れてもそれはいつも光ってた
月に照らされても錆びることはなくいつまでも
※（繰り返し）　マグネットが僕らを抱き上げてくれるの

04. 貨物船

神様の気紛れで 僕は君と出会った 独りぼっちの Chinese
古本屋の片隅で 夕暮れのカフェのフロア ナイトショップの前で
帰り道が同じ ネイバーフッド
何処に居てもわかるさ 君の赤い自転車は 電話で呼び出された
裏通りを抜けていく 週末の前の Thursday 黒いバッグの中身は
見せたことがない シークレット
だから行かないでベイビー 僕のそばにいておくれよ　君がいま必要だ きっとうまくいくはずさ

この街の月明かりで 二人はよく踊ってた　ステップを合わせながら 君の歌ってる歌は
聞いたことのない曲さ 貨物船置き場のタンカー パスポートなしでは乗れやしない
だから行かないでベイビー 僕のそばにいておくれよ　君がいま必要だ きっとうまくいくはずさ
Won't you be loving baby　Won't you be loving baby

05. 夜想

とりとめないバラード 口ずさんでる夜は 疲れた体 癒えていくみたい
どれだけ歩けば報われるの どれだけ夢を見続けられる
夜はどうしてこんなに長いのと 聞かれるまでは 気づかなかった
明日になれば冷めてしまうの 揺れてる君を もてあましてる
You and me いつか別々の You and me 夜に紛れ
Night and day 暗くなる前に Night and day 走り出せよ
今も愛してる君を 夜ごと彷徨う Midnight Blue
今夜の夢に Say Good-Night

とりとめなくバラード 口ずさんでる夜は 汗ばむ心を 洗い流してる
ドラマティックな場面を探す たぶん今夜は酔えそうな気がして
You and me あの頃の自分 You and me もう一度
Night and day よみがえる思い Night and day 胸に抱え
今も夢見てる 明日を届かぬ思い Midnight Blue
今夜の夢に Say Good-bye

06. Stay

Stay、Stay、Stay、ここにいて、慰めてくれた
サヨナラをいつも諦めて With Someone Through The Night
ドアに張りついたメッセージ 誘いにはのっても
昼と夜の機嫌とって、いつも眠い目のマイライフ
Hello & Goodbye 通りを挟んで 彷徨いながら
Hello & Goodbye Shaking On The Street
君のことが忘れられない
※Get out of the Sadness 無邪気なフリして Come on,
Get out of the Sadness、街灯の向こうへ 今夜 Steppin' Out

Stand、Stand、Stand、キスばかり、贈り続けてた
カーテンの色が変わって With No-one Through The Night
ドアに張りついたメッセージ 風にとばされて
水面も葉っぱみたいさ 都合がつかないマイライフ
Hello & Goodbye 夜の隙間で 転がりながら
Hello & Goodbye Dancing On The Street 君のことを思い出している
※繰り返し

07. Sunny Side

彼女はこの街で生まれた Woman 寂しいことばかりでいつも泣いてる
僕はとても臆病なコレクター君の悲しみばかりいつも集めてた
Don't worry my baby, Close To You On A Silent Night
テレビを消したら何もない部屋で Strawberry Jam と Toast が恋をする
黒いカバンいっぱい詰め込んだ　君の優しさばかりいつも集めてた
Don't worry my baby, Call My Name
I'm just going to stand on the sunny side
Just stand on the sunny side

夜がこの街にもやってきて 駅前の人混みが素敵になる
乾杯の Glass と Soup＆Dish 君の愉快ばかりいつも集めてた
Don't worry my baby, Close to you on a silent night
彼女はこの街で生まれた Woman 寂しいことばかりでいつも泣いてる
僕はとても臆病なコレクター さよならばかりいつも集めてね
I'm just going to stand on the sunny side,　Just stand on the sunny side

08. 茶色の瞳

Brown Cortina その瞳の奥に
Brown Cortina 何を映してる

柔らかなその指と 悲しい香りが
ボクを屋根から突き落として フワフワ浮かべる
ラム酒を口に含んで じっと目を閉じる
景色が茶色に染められて 笑ってるだけ
Brown Cortina もうじき君のこと
Brown Cortina 忘れてしまうのさ Ah -

Brown Cortina その瞳の奥に
Brown Cortina 何を映してる

09. メランダの孤独

朝から夜まで、夜から朝まで 君は演じつづける
報われない舞台を カーテンの隙間から、僕は見つめたまま…
メランダの孤独は 眠りのない国へ
光を誘う 向こう岸から 手を振っている
終わりを知らない 森の詩人たちは、今夜も歌い続ける
胸の中にはもう 何も残っていなくても 時は流れてゆく
屋上の上から 舞い降りてゆくとき 夢から覚めた 僕は眠っていたんだ
PLEASE COME TO ME 地図のない砂漠を　歩き疲れていても
PLEASE COME TO ME 傍にきてほしい　　seeing hidden love

夏から冬まで 冬から夏まで 君は踊り続ける
行く宛のないバスは 二人を何処へ 連れてゆくのだろう
メランダのため息は　僕を包んだまま
世界で一番　綺麗な嘘を 隠してしまう
na na-na … 知らないうちに na na-na …微笑んでおくれよ　ここでここで
PLEASE COME TO ME 答えのない夜に 叫び疲れていても
PLEASE COME TO ME 囁きかけてほしい　seeing hidden love

10. You made me
夜の帳を引き連れて 君が居たのは何故
いつかこんな偶然が あればいい思っていたのさ
言葉にならない気持ちが 街の中に 溶けてった
眩しすぎる 笑顔を見て　僕は立ち尽くしたまま
友達のようにいつまでも 笑っていれたらいいさ
透き通った夜の空気は 流れてく 君のいた場所へ
You made me falling down 遠くにいても 君を感じる 今夜も君の幻をみるのさ
後ろ姿を見送った 向こう側には何がある
疲れた僕の魂（ブルー）は 君の手に 転がり落ちた

眠れない夜はいつだって この部屋にやって来る
繋がらない 時間と一緒に 僕を連れてく戻れない場所へ
You made me falling down このままでいいずっと続けば 終わりのない 夢を見ている
You made me falling down 遠くにいても 君を感じる
You made me falling down 遠くにいても 君を感じる 今夜も君の幻をみるのさ
You made me falling down Long long time with me through the night,　Say everything every time

11. 月の雫

気紛れはいつまでも続くわけはない　僕と君はもう かなり遠くにいる
届けない気持ちは誰のせいでもないけど　真夜中の郵便ポストに　押し付けた
夜が青い囁きで誘う そして君をさらっていく
壊れたオルガンのように 僕はいつも歌ってた
月の雫が　零れないうちに 帰ろう

気紛れはいつまで続くのだろう　僕と君はいつもすれ違ってた
もどかしい痛みは 消えてはくれないけれど　このまましばらく歩いてく
夜のアーケードの向こうに 靴音がコツコツひびく
二度と戻らないぬくもりが 僕を独りぼっちにする
月の雫が　零れないうちに 帰ろう

12. My Favorite Town

フクロウさえも 寝静まっている
最後の夜が 今更けてゆく
この街にいくつかの愛を 落としたまま僕は出てゆく
君と二人でいれたなら それだけでいい
離れ離れになってもきっと忘れずにいるさ
もうすぐ春が来る 風はいつもいつも優しい
君と過ごした時間が 街灯の向こうに揺れる
髪を少しだけ切ったら 散歩でもしよう
Oh My Town いつも いつも いつも一人さ

君は旅に出た 西の方の小さな島
眠りについたら 波の音が聞こえてくる
この街に戻ってきたら いろんな話でもしよう
公園通りのカフェでも 行ってみようか
Oh My Town いつも いつも いつも一人さ

13. 土曜日のアトモスフェアー

今夜どこからか聞こえてくる 秘密のララバイ 不思議な夜に 誘われて部屋を飛び出す
孤独でいるのは悲しすぎる土曜日のアトモスフェアー 妖しい夜ならお似合いなのさ月影のリズムに
うかれたバスに飛び乗って 夕暮れの街が溶けてゆく
崩れそうな憂鬱を抱いて 誰もがみんな そうさストレンジャー
Baby 今夜も ひとりじゃいられない だから Baby 今夜も ひとりじゃいられない いつだって

Dawn の Mew が 流れる通り 駆け込んだ Telephone Box 甘く切なく羽を休める天使なら Sold Out
いつまでたっても闇にならないこの街の White Night
素敵な夢を抱きしめても零れるほど Heartbreak
いい加減な恋を見つけて 店の階段を登ってく
ドアを開けると聞こえてくる 調子っぱずれの 疲れ切ったラブソング
Baby 今夜も ひとりじゃいられない だから Baby 今夜も ひとりじゃいられない いつだって
疲れたブルーな心を繋ぐ言葉を探す 二人でいてもなぜか悲しい土曜日のアトモスフェアー
真夜中の公園へ行こう 夜更けの街が溶けてゆく
気まぐれがネオンライトなら 僕らはきっと Weekend Lovers
Baby 今夜も ひとりじゃいられない だから Baby 今夜も ひとりじゃいられない いつだって

14. Brazing Night

クールな夜の Midnight Shuffle こぼれ落ちてきた Stardust Town
今夜 真夜中のバックストリート 二人で Shake and Dance
街角のワルツに絡まっても ひとりぼっちでいるモラルも
いつもポケットの中は 眠りそこねた Rainbow Voice
だけど Brazing night ネオンの隙間に滑り込もうぜ
Brazing night いつも目覚めれば So Bad Morning
街の灯は That's a plenty クラリネットなら Savoy's Stomp
だけど Go go midnight time, 忘れモノラルポーカーフェイス

どこにもあるよな tragic story 彼女が喋りだす前に
今夜 憂鬱なら It's all right シリアスな気分じゃない
古ぼけたピアノが映し出す あの頃の消えそうなライムライト
灯をともすくらいなら OK 闇に Kiss したほうがいい
だけど Brazing night 二人の隙間滑り込もうぜ
Brazing night いつも甘いだけじゃ So Bad Feeling
街の灯は That's a plenty クラリネットなら Savoy's Stomp
だけど Go go midnight time, 忘れモノラルポーカーフェイス ＊Brazing or Blazing；？

15. まなざし

いつも僕は待ってる　誰かが来るのを
窓から忍び込む 月影のまなざし
約束はいつでも 午前零時のあの場所
街の灯りはいつも優しく夜が歌ってる
まどろみを残して会えない時間だけが　いつも切ない

薄明かりの中に影を見つけて
透けて見えるのは君の瞳さ
冷えた外の風は張り詰めていたけれど
僕の前ではどうにもならない

夜が歌ってる今だけは二人と
誰も分からなくなって月が照らす
誰よりもそばにおいでよ

16. 靴音からの使者

真夜中 靴音が消えてゆく　Tonight 今夜もひとりぼっちさ
君が訪ねてきたあの時も　そうさこんな寒い夜だった
突然どこかに消えていった 優しさとおどけた笑顔
臆病に何かを捜し求め 手探りで手後れの二人を置き去りに
闇の中で舞うメリーゴーランド 朝まで飛ばしたハイウェイ
踊り続けた Swinging the moonlight　時計の音だけ残して
当てのない瞳で街を彷徨う Nowhere to stay ふざけたネオンライト
あの頃の二人の The door of heart 誰にも壊せない鍵をおろしてる

ある夜 靴音がここで途切れる　気まぐれな君が部屋へやってきた
ゆっくりゆっくりと歩いてゆく　温もりで包まれた薄明かりの中へ

闇の中で舞うメリーゴーランド 朝まで飛ばしたハイウェイ
踊り続けてた Swinging the moonlight　時計の音だけ残して
真夜中 靴音が響いてる　Tonight 今夜もひとりぼっちさ
あの頃の二人の The door of heart もう一度開くための鍵をさがしてる
Come to see you, come to see you

17. 遠き八月

風渡る空よ 波歌う海よ 花朱く　心白き夏
木霊棲む森に 峰流る川に 樹々碧く　雫落とす雨
　故郷は遠き八月
渚往く鳥よ 野辺歩く獣（もの）よ　草青く 心淡き時
家族（うち）求む旅に 家帰る路に 夢白く 友を探す私（われ）
　故郷は遠き八月
月隠す雲よ 闇に舞う星よ 砂白く 心蒼き夜
父母（もの）眠る唄に 土響く音楽（おと）に 声赤く 祈り捧ぐ酒（みず）
　故郷は遠き八月

18. Re-Start

何度も失敗を繰り返し 時には頭を打っても
必ず立ち上がる子供のように 傷ついては躓きながらも歩き出す
今度こそチャンスを掴むから　最後のコインを賭けても
君の心へ辿り着く　もう振り返らないで走り出せ
　だから Try Again (woo)　重い扉を開けて（woo）
　いばらの道を進め（woo）　暗い孤独を抱いて（woo）　囚われをすてて
形だけじゃない真実の世界　本当の光を探して
果てしない闇の中をくぐり抜け　自由と希望をこの手につかめ

幾度も出発をやり直す　あてなき船出の最後は
必ずここに戻ってくると　永遠の約束をあなたに誓おう
　そうさ　Watch The Light(woo)　遠い灯に向かって（woo）
　夜明け目指して漕ぎ出せ I (woo) 熱き叫びをかかえて（woo）　偽りを砕け
形だけじゃない真実の世界　本当の光を探して
果てしない闇の中をくぐり抜け　自由と希望をこの手につかめ